

【鉄から土へ】

里山の再生および伝統野菜「虎の尾」の保存

活動の場所

三重県尾鷲市向井地区



活動目的

① 里山の再生

～耕作放棄地を活用した六次産業化～

② 伝統野菜の青唐辛子「虎の尾」の保存

～持続的に伝統野菜を栽培するための商品開発および冬水田んぼ活用による環境教育～

活動内容

【背景：鉄から土へ】

私たちは、尾鷲市向井地区で現在、伝統野菜の青唐辛子「虎の尾」や樹齢50年を過ぎても実をつける「奇跡の甘夏」などを栽培する「おわせむかい農園」を経営しています。以前は、中部電力尾鷲三田火力発電所にて、鉄塔の整備や配管清掃などを行っていましたが、2018年12月に約60年稼働していた発電所が廃止となりました。尾鷲を離れて鉄の仕事が続けるか、尾鷲に残り他の仕事を探るか選択を迫られ、尾鷲に残ることを決めました。決め手は、現在の社長が幼少期を過ごした尾鷲市向井地区にはまだ素晴らしい自然や里山が残っていたからです。そこで、「鉄から土へ」を合言葉に、かつて産業構造の変化により耕作放棄されていった段々畑を借り、農業を始めました。

【取組①：里山の再生】

30年以上、耕作放棄された石垣の段々畑を活用し、里山の再生のために向井地区の伝統野菜である青唐辛子「虎の尾」や甘夏などの無農薬栽培に取り組んでいます。しかし、段々畑の狭い面積での栽培では農業だけの売上に限界があります。そのため、「果樹のオーナー制度」「体験農園」および「キャンプ場」など六次産業化を図るとともに、県内外との関係人口の創出や、農園を子どもたちに開放し、子どもの居場所づくりや伝統工芸・技術の伝承、畑づくりなどの機会を提供しています。

【取組②：伝統野菜の保存】

尾鷲市向井地区の伝統野菜である青唐辛子「虎の尾」を栽培していますが、栽培する農家は年々減り今では3軒のみ。持続的に虎の尾を栽培できるよう、都市部のレストランでの利用や虎の尾醤油の商品開発など、六次産業化に取り組んでいます。また、虎の尾は連作障害があるため、虎の尾の栽培の翌年と翌々年は、畑を水田に代えて稲作を行っています。現在、田んぼの生き物が全国的に減少する中で、無農薬の水田環境が里山にあることの意義は大きいのですが、そもそもの担い手不足や、販売先の確保などが課題で、田んぼの保存も危ぶまれています。私たちは、2023年より「冬水田んぼ」を実施することで、生物多様性を高めるとともに、子どもや大人が楽しんで生物調査をするなど、環境教育の場としても活用していきます。

PRしたいポイント

① 「Just Transition（公正な移行）」の具現化

気候変動および事業環境の変化により事業の変更を迫られた企業が「鉄から土へ」を合言葉に、「里山の再生」や「伝統野菜の保存」など、脱炭素や生物多様性に具体的に移行していく姿（Just Transition）を皆さまの参考にしていただく。

② 耕作放棄地を活用した、里山の再生

③ 年々、生産農家が減っていく伝統野菜の青唐辛子「虎の尾」の保全と環境教育の連動

活動効果、今後の展開 等

○ 農業を軸としつつ、「生物多様性」および「脱炭素」をテーマとしたキャンプ場や農業体験など、六次産業化に取り組みます。（例：生物調査付農業体験、太陽光パネルおよび蓄電池を使った地産地消のエネルギー利用によるキャンプ事業、里山をめぐるE-bikeツアー、虎の尾を含む三重県産の食材を使ったBBQ など30by30の実現）

○ 生物多様性へのアプローチや環境への具体的なアクションを模索する企業の視察や研修の受入、人材育成等。